

■市民ふれあい座談会での意見要望一覧(令和8年7月14日、五和地区)

No.	意見・要望	市長回答内容
1	梅雨には宮津川は溢れ、友辻地区では床下浸水の被害に見舞われる。川底に砂利が溜まり、道までの高さが1メートル位の箇所もある状況。天草市には、同様の箇所が多数あると思う。行政に工事をお願いするとすれば、莫大な費用が掛かり、天草市の財政では厳しいと推察している。 そこで、地区からの申請により、行政から審査を受け、リース料(ユンボ等)補助金を助成する事が出来ないか。勿論、その際の工事・作業等に関する責任は、申請地区限りとするとの要件でどうか。	【馬場市長】 天草市の財政状況を考慮した提案であり、大変ありがたい。しかし、重機などの取り扱いは使用時の事故が懸念される。作業の危険性や破損のリスクがあるため、リース補助や機械の貸与ではなく、公共施設においては市が自ら行っていく。草刈りなど地域で対応可能な作業については、ご協力いただきたい。
2	アカモク、かじめ、枇杷の種は、免疫力並び抵抗力を上げると言われているのは、皆さんご存知のことだと思うが、その3品は天草には豊富にある。しかしながらその品は活用されず、そのまま手つかずの状況である。 まずは、アカモク、かじめ(酢の物等)を食堂の一品として出してみる、もしくは行政が主導してその品を使って特産品の開発に繋げるようにできないものか。または天草で市販されている商品に混ぜてみるとかできないものか。	【馬場市長】 天草漁協によると、アカモクやかじめは市場にあまり流通していないとのこと。特にかじめは資源保護のため、漁業者間で協議のうえ採取量が制限されている。天草市としても藻場を保全する立場から、積極的な活用のアナウンスは難しい。現在、商品開発を検討されているのであれば、市では事業者所得の向上や地産地消、天草ブランド推進を目的に、加工所の整備や商品開発、物産展・商談会への出店などを補助金で支援しているため、ぜひ活用してほしい。 【補足】 天草ブランド産品推進支援事業補助金として支援している。食品分析、商標登録出願、パッケージ等作成、コンテストチャレンジ等にも活用することが可能。
3	私の地区では「鬼池ひなの会」という活動を14年間行っている。地域の方々、とりわけ高齢者にひな飾りの場でくつろいでほしいという趣旨で始めたものだが、回を重ねるごとに文化的イベントの開催や南島原との連携など、五和まちづくり協議会の協力も得ながら地域イベントとして定着してきた。 昨年は馬場市長にも会場にお越しいただき、「お年寄りの集い」の一部に参加いただいたため、その一端をご理解いただけたと思う。今後も地域の大切なイベントとして、若い世代の企画を盛り込んだ魅力ある実施、南島原との交流の定着・拡大、まち協との連携強化を目標に続けていきたいと考えている。 しかし、天草地区の大半が直面する人口減少や高齢化の中で、実行委員の高齢化、世代交代や予算確保の難しさといった課題を抱えている。このイベントを天草地域にとっても価値ある活動と認定いただき、市からの財源補助を検討してもらいたい。	【馬場市長】 地域住民が一体となって「鬼池ひなの会」に取り組み、地域活性化のために長年継続していることは素晴らしいと思う。イベント実施における高齢化や財源の課題は市内の他地域でも同様と認識しているが、すべてのイベントに財政支援を行うことは非常に難しいのが現状。 まちづくり活動への財源補助としては「ふるさと応援交付金」があるため、その活用を地域で検討してほしい。 新和町の中田地区では、出身者にふるさと納税を呼びかける取り組みを行っている。自ら資金を調達して活動することは地域の自信にもつながるため、まちづくり協議会や振興会との連携をお願いしたい。市としてもこうした地域イベントはまちづくりに不可欠と考えており、持続可能な活動となるよう伴走していきたい。 【補足】 「ふるさと応援交付金」の各地域の活用事例を紹介し、活用を推進することにより、さらなる「ふるさと応援寄附金」の獲得に繋がるよう取り組んでいく。
4	九州の地図を90度左向き(反時計回り)に回転すると、天草が中央真下に位置し、その上に陸地に囲まれた「地中海」が現れる。この九州地中海のキーポイントに位置する天草から、沿岸の5県に何らかのアプローチができるのではないかな。	【馬場市長】 なかなか面白い発想だと思う。私たちもいつもの日本地図しか天草をみていないため、新しい発想だと思う。 海から天草を見てみると、天草は大陸に近く、大陸から西洋文化が渡ってきているのが分かる。そのことを考えながら、海からの道として様々な施策を考えているところ。 また、周辺の各県との連携については、九州西岸軸構想としての三県架橋構想で連携を図っている他、秋に制定されるサイクリングコースを軸として各県と交流を図っていきたい。また、九州市長会にてONEKYUSHUプロジェクトを練っていて、そこでも天草の観光施策と連携したいと考えている。

■市民ふれあい座談会での意見要望一覧(令和8年7月14日、五和地区)

No.	意見・要望	市長回答内容
5	若い夫婦から、空き家バンクで家を探しても、なかなかないと聞くと、どのようにして空き家を探しているのか。 また、実家への移住には補助金がないとのこと、あきらめるパターンが多いと聞くと、要件の見直しができないか。特に鬼池は人口が少なくなっており、空き家も増えており10年後がともて不安。 実家の父母の話聞いて実家に帰るか、子供が生まれて天草に帰ってきたいため家の改装補助金をもらいたいというケースが多い。鬼池は家を建てられる土地が無く、実家に帰れないのが現状である。	【馬場市長】 大半は市の移住定住サイトの「あまくさライフ」で見つけてもらっている。実際に市役所の窓口で尋ねられた場合も、そのサイトを案内している。また、東京等の都市圏にて開催している移住説明会等、色んな場面で空き家情報を提供している状況。 補助金の要望は、今の現状では、住宅のリフォーム助成金の制度があり、その制度を活用していただいている。実家へ帰ってくる方への補助金は、必ずではないが、検討はしたいと考えている。そのまま空き家のまま解体するか倒壊危険家屋になるぐらいであれば、実家に住んでいただく方がよいと思うが、実際どのくらいの方が実家に帰ってくるのか、どの程度の予算が必要かの積算が必要になる。今回の要望を持ち帰りこれから研究していきたい。 【補足】 住家の改築・改装については、住宅リフォーム助成事業が活用することができる。令和8年度は、対象を拡充し、補助率、補助上限額は変わるが、2回目の申請が可能となる。活用を検討いただきたい。
6	在日韓国・朝鮮人の方の参政権(投票権)について 約80年前の終戦時から現行の日本国憲法の公布までの間に一時的に参政権が取り上げられ、現在もその状態が続いている。戦前は、参政権が保障されていたのに、現在は納税の義務を果たしているにもかかわらず保障されていないのはおかしいのではないかと。 ちなみに最高裁では、「国政選挙は国民に限る」としているが、基本参政権は住民に与えられるので、在日韓国・朝鮮人も投票権はあるとされている。 滋賀県米原市では20年前に市の条例として在日韓国・朝鮮人にも市民権を与えられている。納税の義務はあるのに、参政権が与えられていないので、人間の尊厳を守る上でも、共に天草で暮らす仲間として参政権を与えられるよう検討していただけないか。	【馬場市長】 この場では回答できないが、これからの市政の参考にしていきたい。
7	SDGsについて 現在の地球環境は耐えられないほど持続不可能な状態となっている。原因としては、石油依存の社会に依存したグローバルな経済循環にあると考えている。改善のためには、石油依存が常識となっている今の社会を転換し、地域内で資源を循環できる社会の構築が必要ではないか。天草市でも地域循環型社会を目指すための指標(例:食料自給率)を設定し、数値化してみてもどうか。	【馬場市長】 目指すべき方向性については、同じ考え。天草市でも、地域内経済循環の実現に向けた取り組みを行っている。食料自給率は、天草市のみの数値は不明だが、学校給食での食料自給率は、天草市内の食材を積極的に使用しており、過去には23%だった自給率を32%まで上げている。今後も数値を上げていきたい。天草市にある資源で経済を回していく他、観光客が天草に来てもらって天草の食を食べてもらうことも非常に重要であり、その施策も行いながら地域経済循環を高めていき、100%とまではいかないが、近づけていくよう努力したい。
8	人口の自然減を根本から解決しないことには、道路建設を行っても、完成した時には既に限界集落になっている可能性がある。原因としては、根幹である一次産業が持続可能になっていないからであると考えている。私の考えとしては、一次産業の地域への貢献度が高いため、一次産業従事者の公務員化をしてみてもどうか。生活保障を行うとともに頑張りに応じた報奨を与えるなどして持続可能な一次産業に変えるべきである。	【馬場市長】 自然減は、団塊の世代の高齢化もあり、死亡者を少なくするのは難しいが、子どもを増やす取り組みについては天草市でも婚活支援を行っている。 一次産業に従事する家庭は子どもも多く、一次産業を持続可能な形にしていくのは賛成で、国の方向性も見ながら勉強していきたい。一次産業の公務員化は我々では決めることができず、国が方向性を決める必要がある。全国の市長会等々に意見をあげて、あり方を考えていきたい。 【補足】 本市が実施している「出会い応援事業」は、結婚や出産が個人の自由な意思決定に基づくものであることを大前提としつつ、少子化対策および男女共同参画社会の実現に向けた施策の一環として、結婚を希望する方に出会いの場を提供するもの。今後も、あらゆる人にとって生きやすい社会の実現を目指すと同時に、少子化という大きな課題に対する一つの取組として本事業を進めていく。
9	海を豊かにしたいとの事だが、海の生物を住みにくくしているのは、合成洗剤の使用がある。例として福岡市の糸島地区で200戸を対象に福岡市と大学と石鹸メーカーが連携して資材を家庭へ提供し合成洗剤から天然の洗剤を使用する実験を行ったところ、3〜4ヵ月で海がきれいになった事例があった。この事例を参考に天草市でも海の生き物に影響しない資材で暮らせるようにしてほしい。	【馬場市長】 他市の取り組み状況を見ながら勉強していきたい。

■市民ふれあい座談会での意見要望一覧(令和8年7月14日、五和地区)

No.	意見・要望	市長回答内容
10	天草の魚がおいしいと来られる観光客が多いが、野菜や果物のレベルを上げて行きたいと考えており、特に無農薬栽培の比率を上げてもらいたい。2050年に有機栽培の比率を25%にすると国は目標を立てているが、天草市は動きがないため、積極的に動いてほしい。	【馬場市長】 2050年までに有機栽培の比率を25%にしていくとの目標は把握しているが実際にはあまり動きがないのが現状。有機栽培の比率が上がれば環境面でも良くなるが、生産面では生産量が増えておらず、生産量が増えないことには有機栽培の比率が高まらない。そのための仕組み作りにはチャレンジしていきたい。 【補足】 国は2050年まで耕地面積の25%を有機栽培にすると目標を設定しているが、具体的な方法は明確でなく、指導者も不足している中で、市として積極的に有機農業を推進できる手法を確立出来ていない状況にある。 まずは、環境保全型農業直接支払事業を活用した「環境にやさしい農業」の推進と、有機農業に取り組みたい農業者の生産団体の育成に努めていきたい。